

公益財団法人 中国残留孤児援護基金

平成25年度

介護関連活動状況調査の結果（概要）

■ 調査の概要

■ 介護関連活動状況調査の結果

1 回答者の概要

- (1) 帰国者との関係、年齢（年代）
- (2) 性別
- (3) 居住地
- (4) 日本での居住年数

2 資格取得と介護関連業務への従事状況等の概要

- (1) 介護資格取得の時期
- (2) 取得した資格
- (3) 介護関連資格取得後の就労状況
- (4) 現在介護関連の仕事に就いている者について
 - ①雇用形態
 - ②仕事の見つけ方
 - ③事業所のサービス種類
 - ④職場までの通勤時間
 - ⑤1ヶ月の就労時間
 - ⑥1ヶ月の平均収入
 - ⑦世帯収入中の介護収入の割合
 - ⑧中国帰国者を担当した経験
- (5) 現在介護関連の仕事に就いていない者について
 - ①介護の仕事をしていない、または、しない理由
 - ②今後、介護の仕事をする意志
- (6) 介護関連資格取得者の行っている他の帰国者支援活動等
- (7) 人材バンクへの登録、及び、援護基金機関紙送付の可否

■ 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、援護基金が介護関連資格取得援助を行った者（中国帰国者とその家族）の介護関連業務への従事状況を調べ、今後の援助の在り方を検討する資料とするために実施した。

2 調査の対象

援護基金が介護関連資格取得援助を行った者（中国帰国者またはその家族）。

3 調査基準日

平成25年11月1日

4 調査の期間

平成25年10月～平成26月1月

5 調査の方法

調査対象者に調査票（兼回答用紙）と返信用封筒（受取人払い）を郵送し、対象者自らが回答を記入し援護基金本部事務局に返送する方法により実施。

6 調査結果の取りまとめ

調査票を郵送した573名中121名が宛先不明により不達。調査票が届いたと見られる452名のうち120名が回答（回答率約27%）。

調査結果は、回答のあった120人について取りまとめた。

■ 介護関連活動状況調査の結果

※集計数字の処理法

- 1 調査票の回答者は合計120名であったが、質問毎に見ると必ずしも全員が回答していない質問もある。したがって、各質問に対する回答の集計は、その質問への回答が無いものを「不明」として回答数から除外して集計した。
- 2 パーセンテージは原則として小数第一位を四捨五入した整数値で表すこととした。このため、合計が101%や99%となる場合もある。

1 回答者の概要

(1) 帰国者との関係、年齢（年代）

回答者の帰国者との関係（以下「関係」という）は、一世配偶者1人（42歳）を例外として、すべて二世三世の世代（配偶者を含む）であった。

一世世代 1% 二世世代 76% 三世世代 23%

年齢は、平均44.1歳。40歳代が最も多く全体の52%、次いで50歳代が22%、30歳代が18%となっている。

「関係」と年齢を組み合わせると、40歳代の二世世代が回答者の中心となっていることがわかる。

(人)

関係 年代	一世	一世 配偶者	二世	二世 配偶者	三世	三世配 偶者	不明	計
20代	0	0	0	1	8	1	0	10(8%)
30代	0	0	4	2	6	6	0	18(15%)
40代	0	1	28	26	4	2	0	61(52%)
50代	0	0	16	5	0	0	1	22(19%)
60代	0	0	5	2	0	0	0	7(6%)
不明	0	0	1	1	0	0	0	2
計	0	1 (1%)	54 (45%)	37 (31%)	18 (15%)	9 (8%)	1	120 (100%)

(2) 性別

回答者120名の性別は、男性16名、女性104名であり、全体の約87%が女性であった。

(3) 居住地

大阪府が特に多く(全体の43%)、続いて兵庫県(13%)、東京都(11%)と続くが、これは帰国者の居住分布とは大きく異なっており、回答者(二世三世ヘルパー)の分布には大きな偏りがあるようだ。

都道府県	ブロック	回答者数		%	%
北海道		0		0	
東北	福島	1			
	山形	4	5		4
首都圏	神奈川	7			
	埼玉	2			
	東京	13			11
	長野	5			
	新潟	2	29	24	
東海北陸	愛知	6	6	5	
近畿	兵庫	15			13
	大阪	52			43
	京都	4			
	滋賀	1			
	奈良	3	75	63	
中四国	広島	1			
	岡山	1	2	2	
九州	大分	1			
	鹿児島	2	3	3	
		120	120	101	

(4) 日本での居住年数

回答者の日本での居住年数の平均は18年。居住年数の分布は、「来日後15~20年」の人を中心にしたピラミッド型になっている。

日本居住年数	人	%
5年未満	2	2
5年以上10年未満	12	10
10年以上15年未満	25	22
15年以上20年未満	32	28
20年以上25年未満	27	23
25年以上30年未満	13	11
30年以上	5	4
計	116	100
不明	4	

2 資格取得と介護関連業務への従事状況等の概要

(1) 介護資格取得の時期（資格取得援助の時期）

介護資格取得の時期についての質問に対しては、回答者の中には記憶が曖昧な者もあり矛盾する回答が含まれていた。このため、全体的に見て信頼性に乏しいと考え、各人の資格取得と前後する時期に行われた援護基金からの資格取得援助の時期を調べることにした。

回答者のうち、最近5年間に資格取得援助を受けた者が77%を占めている。

援助時期	人	%
平成15年度	3	3
平成16年度	3	3
平成17年度	5	4
平成18年度	10	8
平成19年度	2	2
平成20年度	5	4
平成21年度	21	18
平成22年度	22	18
平成23年度	18	15
平成24年度	17	14
平成25年度	14	12
計	120	101

(2) 取得した資格

取得した資格については120名中111人が答えている。一人で2種類、3種類の資格を取得した者もいるが、95%以上の者がホームヘルパー2級を取得している。

取得資格	人
ホームヘルパー2級	106
介護福祉士	10
(主任)ケアマネージャー	5
その他	4
計	111
不明・受講中	9

(3) 介護関連資格取得後の就労状況

介護の仕事に従事しているかを聞いたところ、57%が現在何らかの形で介護の仕事に従事していると答えた。一方、28%が介護の仕事に従事したことがない、またはする気もないと答えた。

現在介護の仕事に従事	42 (36 %)	67 (57 %)				
現在介護と他の仕事に従事	25 (21 %)					
今は介護をしていない	17 (15 %)	50 (43 %)				
介護したことなし、する気なし	33 (28 %)					
計	117 (100 %)					
無回答	3					

(4) 現在介護関連の仕事に就いている者について

①雇用形態

現在介護の仕事に従事している者のうち、約4分の1（27%）が正規職員で、残り約4分の3は非常勤やパートの職員であった。

	人	%
正社員	17	27
非常勤・パート	46	73
計	63	100
回答無4名		

②仕事の見つけ方

現在介護の仕事に従事している者の仕事の見つけ方については、友人や知人の紹介による場合が最も多く約43%となっている。

	人	%
①ハローワーク	12	18
②民間紹介所	4	6
③Inet、チラシ、雑誌等	11	16
④友人、知人紹介	29	43
⑤その他	12	18
計	68	101

③事業所のサービス種類

現在介護の仕事に従事している者の所属する事業所が行っているサービスの種類について聞いた。「訪問系」が最も多く53%であった。「通所系」は7%と意外に少ないが、帰国者向けのデイサービス施設等が少ないためか。

	人	%
1訪問系	32	53
2施設系	12	20
3通所系	4	7
4小規模多機能系	7	12
5ショートステイ	0	0
6地域密着型	5	8
計	60	100
無回答7名		

④職場までの通勤時間

現在介護の仕事に従事している者の職場までの通勤時間は、全体の4分の3以上（77%）が30分以内と答えている。

	人	%
1) 15分以内	21	35
2) 30分以内	25	42
3) 45分以内	6	10
4) 1時間以内	4	7
5) 1時間以上	4	7
計	60	101
無回答7名		

⑤1ヶ月の就労時間

1ヶ月の就労時間は、100時間以上と答えた者が29%（17名）であり、「①雇用形態」における正規職員27%（17名）と符合している。

	人	%
1) 30時間未満	11	19
2) 30～50時間	20	34
3) 50～100時間	10	17
4) 100時間以上	17	29
計	58	99
無回答9名		

⑥1ヶ月の平均収入

1ヶ月の平均収入が20万円以上の者は4名（7%）のみで、30万円以上はいない。

	人	%
1) 5万円未満	17	28
2) 5～10万円	20	33
3) 10～20万円	20	33
4) 20～30万円	4	7
5) 30万円以上	0	0
計	61	101
無回答6名		

⑦世帯収入中の介護収入の割合

世帯収入に占める介護収入の割合は、1割未満が24%、3割以下が57%を占めている。一方5割以上と答えた者はわずか18%のみ。

	人	%
1) 1割未満	12	24
2) 2～3割	17	33
3) 3～5割	13	25
4) 5～8割	4	8
5) 8割以上	5	10
計	51	100
無回答16名		

⑧中国帰国者を担当した経験

中国帰国者の介護を担当したことがある者は34%で、担当したことのない者の方が多い。

	人	%
1) ない	34	56
2) ないが、見聞きした	6	10
3) ある	21	34
計	61	100
無回答6名		

中国帰国者の介護を担当したことがある者に、中国帰国者を担当して困ったことについて聞いてみた。回答内容は、帰国者を担当して困ったことに限らず、自分が介護員をして困ったこと、帰国者が日本の生活で困ること等も含まれている。

- 中国帰国者は日本語が出来ないので、日本の風俗・習慣がわかりません。ですから、病院の職員と同室の患者さんから苦情がありました。それを解決しなければなりません。
- (1) 残留婦人に対して、皆長年中国で暮らしましたが日本語がほとんど忘れていません、ですから出来るだけ日本語で話をかけたいほうが良い（人間距離を縮む為）
(2) 言葉だけじゃなくて、日本人の独特の性格や考え方も尊重しなければなりません。
(3) 残留孤児に対して、皆日本語があまり上手じゃないから日常生活の中困る事があつたり、できるだけ助けましょう。介護仕事とは、上手にやりたいと思っても、簡単にできるわけないでしょう。けれども、やさしい心を持って日々自分が反省して、利用者に対して自分のおやと思ってきっと利用者とその家族とうまく付き合います。
- やはり、言葉の壁を乗り越えるのは難しいと思いますが、近所の方とコミュニケーションを取る機会がかなり少ない感じました。生活習慣や食文化、また中国

のそのまま過ごされています。

- 私訪問するとき、中国語で話すから、困ったことないですが、日本人の職員訪問時、言葉通じないで、困ったことがお互いありました。
- 介護基金援助頂きました。有り難うございます。現在介護関連施設老健のお仕事。その中に中国帰国者2世おります。利用者と家族日本語会話出来ない。私その施設に大変役立つ、いろいろ通訳、介護、問題解決する。私の居住伊丹市外国人約2千人おります。年増長要介護高齢者の方人数増えています。高齢者の方お話は興味深くおもしろかったです。
- 中国から日本に帰国者残留婦人、残留孤児2世、半数以上、中国の農村で暮らしていました。中国に住んで間に貧しい生活をしていました。お金がなく一般的な地位も無く教育も受けていなかったのが現実です。日本に帰ると実際に日本に生活して始めると、新しい問題が生じ言葉の壁でコミュニケーションがとれません。日常生活をする中で次々に問題が起こります。例えば買い物、病院、交通、趣味等で困ることが多々あります。日本人も中々受け入れてくれず交流機会も少ないです。日に日に自信がなくなり外出の機会も段々と少なくなる状況にあります。孤独になり寂しい気持ち募るばかりです。私の回りでも知人二人が自殺しました。まだ50代です。先進の国、日本でなぜ自殺を選んだのか、とても悲しい気持ちになりました。人間の命はもっと尊い筈です。人間は食べるだけ無く、健康で快適な生活を皆望んでいます。仕事したい採用くれませんでした。私は私の自らの経験を今年5月～今まで20社ぐらい面接をしていましたが長い時間働きつもあり、採用はありませんでした。最低生活、収入低下労働力仕事探す難しさ、差別どこでもあり、疲れたの体、心、毎日続いています。人格がありませんと思いました。介護現場言葉の障害大きいので十分な介護は受けていません。現在の施設ディサービス中国の人は参加したくない人がたくさんいます。自宅に閉じこまって過ごしています。私の意見は中国人向き施設作り改善して人々の人権を尊重し、平等で人々追求幸福権利あり、幸福な生活を送りして下さい。
- 1. 中国帰国者を担当して介護条件以外の問題がいっぱいあります。
 - (1) 足が不自由な方が美容院へ来たい時。
 - (2) 歯科に生きたい時の通訳。
 - (3) 日本人からの電話の意味がわからない。
 - (4) 病院からの電話で内容がわからない、変更の予約ができない。
 - (5) 書類の理解が不十分。
 - (6) 買い物代行（ボランティア）
- 2. 日本語がわからないため施設へ行かない、行けない時があったら睡眠薬を飲んで死ぬと言う人が何人かいた。帰国者向きの施設は喫緊に必要。
- 3. 高齢の帰国者は若い世代と一緒にいる時間が少ないほど、高齢者の精神面に

鬱や妄想症が現れ普通の日本人より深刻な状況になる。

4. 薬の管理が混乱する。

5. 二世・三世の皆が一世達の心配や不安を慰めたり、老後の生活を考えるべきだと思う。皆の提案や力が必要だと思う。”

○ 援護基金の援助を頂きありがとうございます。援助を受け勇気を貰いました。今介護の仕事ができて家事などの仕事をしながら忙しいが、とても充実した毎日です。一応、帰国者を担当しましたがやはり出来ない、色々な要求をしてきました。私は日本語がまだ上手ではない、書くのが苦手でもっと勉強しなければいけないと思っている。

○ 中国帰国者、残留婦人の方は日本語会話できる方が多いとみられますが、要介護になり施設利用時、日本人の方と同じサービスを受ける時、生活習慣又は文化が違うので、時にトラブルを起こします。中国語のわからない職員と対立し大変困っていることもありました。残留孤児の方は日本語会話が出来ない方が多いので、相手（日本人）の話はわからないので、会話やふれあいは放任する方が多いと思われる。孤独になるが自己中心的にもみられます。

①十分な日本語会話ができない残留婦人が、施設内外の利用者とトラブルを起こしたとき、どうすればよいですか。

②日本語は出来ない、中国語の文化も低い残留孤児が介護サービスを利用する時、相手の理解や協力をしない自己中心とみられる時はどうすればよいですか。

③職員が帰国者にサービス提供を拒否（或いは差別）する時はどうすればよいですか。

○ 他の利用者がある場合中国語の会話は難しい。互いの周囲の目を気にしてしまう。

○ 両親の介護などいろいろとやりました。最大の問題が病院に行く時言葉の問題から、どこが痛い、痛みの程度、症状…説明は全て出来ません。毎回病院に行く時に通訳と行かねばならず困ります。

私も日本語を勉強したいが、記憶力が悪く独学です。効果はありません。下手な日本語で先生と交流します。これからも努力します。

(5) 現在介護関連の仕事に就いていない者について

①介護の仕事をしていない、または、しない理由

介護資格を取得しながら介護の仕事をしていない理由で最も多かったのは、「(より収入の多い、または条件の良い)他の仕事をしている」だった。次は「日本語や習慣に自信がない」。

	件数	% (人数)	% (件数)
1)条件に合う事業所がない	8	17	12
2)他の仕事をしている	28	58	41
3)日本語や習慣に自信がない	15	31	22
4)言葉や習慣等でトラブル	2	4	3
5)体力や健康の面で無理	5	10	7
6)事業所を見つける方法がわからない	3	6	4
7)その他	8	17	12
計(回答件数)	69	143	101
48人が回答(2人無回答)			

②今後、介護の仕事をする意志

まったく意志のない人はわずかであり、何らかの状況変化やタイミングにより介護の仕事に就きたいと考えている人が多いようだ。

		% (人数)	% (件数)
1)条件に合う事業所が見つければ	14	31	23
2)日本語や習慣に自信が持てれば	11	24	18
3)帰国者の同僚や被介護者がいれば	10	22	17
4)今の仕事が終われば	13	29	22
5)介護の仕事はやるつもりなし	1	2	2
6)その他	11	24	18
計(回答件数)	60	132	100
45人が回答(5人無回答)			

(6) 介護関連資格取得者の行っている他の帰国者支援活動等

120人中、46人(38%)が帰国者に関係する他の業務の経験をもっている。

1自立指導員	11
2自立支援通訳	21
3支援交流センター	12
4身元引受人	3
5ボランティア団体	18
計	65

(7) 人材バンクへの登録、及び、援護基金機関紙送付の可否

人材バンクへの登録については、回答者120名中67名が「登録可」、22名が「どちらでも可」と答えている。合わせると89名（約74%）となる。

1登録する	67
2登録しない	18
3どちらでも	22
空欄	13
	120

援護基金機関紙等の送付については87名が「送付希望」、13名が「どちらでも可」と答えている。合計100名（約83%）。

送付	87
送付なし	9
どちらでも	13
空欄	11
	120